

**第 1 回(仮称)港区立科学館プラネタリウム機器等製造業務委託事業候補者選考委員会  
会議録(要旨)**

|       |   |
|-------|---|
| 会 議 名 | 第 1 回(仮称)港区立科学館プラネタリウム機器等製造業務委託事業候補者選考委員会   |
| 開催日時  | 平成 2 9 年 6 月 1 9 日 (月曜日) 午後 4 時から午後 6 時 3 0 分まで   |
| 開催場所  | 教育委員会室  |
| 委 員 員 | NPO 法人東亜天文学会理事長 山田 義弘 (委員長)<br>教育委員会事務局次長 新宮 弘章 (副委員長)<br>お茶の水女子大学 副学長 千葉 和義 (委員)<br>平塚市博物館学芸員 馬 宏道 (委員)<br>教育委員会事務局指導室長 松田 芳明 (委員)   |
| 事 務 局 | 教育政策担当  |
| 会議次第  | 1 開会<br>2 委員長等選出<br>3 (仮称)港区立科学館の概要について<br>4 選考スケジュール、業務内容について<br>5 プロポーザル実施要項について<br>6 選考方法について<br>7 その他<br>8 閉会   |
| 配付資料  | ・次第<br>・資料 1 (仮称)港区立科学館プラネタリウム機器等製造業務委託事業候補者選考委員会設置要綱<br>・資料 2 選考委員名簿<br>・資料 3 (仮称)港区立科学館整備の概要<br>・資料 4 選考スケジュール (案)<br>・資料 5 プロポーザル実施要項 (案)<br>・資料 6 各様式 (案)<br>・資料 7 仕様書・特記仕様書<br>・資料 8 提出書類作成・提出要領<br>・資料 9 審査方法・審査基準(案)<br>・資料 10 評価項目・採点基準 |

| 会議の内容 |   |
|-------|---|
| A委員   | <p>【1 開会】<br/>(委員長選出まで事務局で進行) ～詳細省略～</p> <p>【2 委員長等選出】<br/>(山田委員を委員長に、新宮委員を副委員長に選出) ～詳細省略～</p> <p>【3 (仮称)港区立科学館の概要について】<br/>(事務局より(仮称)港区立科学館の概要について説明)<br/>○プラネタリウムは何名定員か</p> |
| 事務局   | ○席数は119席。大体3クラス分くらいを想定している。   |
| B委員   | <p>【4 選考スケジュール、業務内容について】<br/>(事務局より選考スケジュール(案)、仕様書・特記仕様書について説明)<br/>○仕様書、特記仕様書については今現在の機器や番組内容であるが、開設は3年後であることから、開設時期のことを意識して、本プロポーザルにあたる必要がある。</p>                           |
| 委員長   | ○他に意見がないようであれば、選考スケジュール、業務内容について、本委員会です承するという事によろしいか。   |
| 全委員   | (異議なし)  |
| D委員   | <p>【5 プロポーザル実施要項について】<br/>(事務局よりプロポーザル実施要項(案)、各様式(案)、提出書類作成・提出要項について説明)<br/>○学習番組の使用可能期間はどのくらいを想定しているものなのか。</p>   |
| 事務局   | ○特別授業番組、一般番組については3～5年を想定している。<br>常時プログラムはすべてを3～5年で更新するとは考えていない。18あるプログラムのうちいくつかを順次更新していくことになる。  |
| A委員   | ○直近5年の実績ではなく、例えば直近10年に広げると参加企業が増えるか。  |

|     |  |
|-----|--|
| 事務局 | ○今回港区が求めているレベルのものが流通したのは、5年程前からであるため、10年に広げても変わらないと思う。また、直近で実績のない企業の参加は不安な面もある。                  |
| B委員 | ○国内企業だけでなく、国外企業が参加しても良いのか。   |
| 事務局 | ○参加可能である。  |
| 委員長 | ○他に意見がないようであれば、プロポーザルの実施要項について、本委員会です承するという事によろしいか。  |
| 全委員 | (異議なし)   |
|     | <b>【6 選考方法について】</b>  |
| A委員 | ○審査項目のデジタル機器については機械の性能で判断できるはずだが、絶対評価ではなく、あえて委員に主観で採点させる必要はあるのか。                                 |
| 事務局 | ○機器の性能については数字で評価基準を設けるのが難しい。   |
| A委員 | ○使いやすさについては実際に使ったことのない委員にとって採点しづらいのではないか。  |
| D委員 | ○第二回選考委員会場で、わからないことを学識経験者の委員に聞きながら採点を修正していくことが出来るのであれば良いのではないか。                                  |
| 事務局 | ○第二次選考委員会場では採点の修正などについても議論していただきたい。  |
| D委員 | ○どうしても一次審査の段階では業者がわかりやすく記載してきているかという点が評価ポイントになってくる。その点で学識経験者の委員とは差が出てしまうと思うが、この場で知識を共有できれば良いと思う。 |
| C委員 | ○契約締結後に最新の機器等が出てきた場合、区としていつまで機器の変更に対応してもらうのか。その時期に縛りを設けた方が良いのではないか。                              |
| 事務局 | ○契約の担当部署に、プロポーザルの中でそのような規定が妥当かどうか確認する。   |

|     |  |
|-----|--|
| A委員 | ○パソコンの数の記載はあるが、性能は記載しないのか。   |
| 事務局 | ○特記仕様書にパソコン性能の条件の記載があるため、低い性能のパソコンを提案してくるということを想定していない。  |
| A委員 | ○描画用のパソコンは性能によって相当な違いが出るので記載したほうが良い。   |
| 事務局 | ○様式 12 の 2 にパソコンの性能を記載する項目を設ける。  |
| A委員 | ○二次審査の取組姿勢について、プレゼンテーションは優れているが、実際に契約すると良い事業者ではなかったということがある。また、プレゼンテーションを自社の社員ではなく、プレゼンテーション専門の事業者に依頼しているということもあるが、この項目を設けても良いのか。                                    |
| 事務局 | ○一次、二次審査合わせると取組姿勢の評価点数は全体の 1 割程度なので事業者決定に大きな影響はない。また、プレゼンテーションを行うのは総括責任者、製造の部門責任者に限っているため、プレゼンテーションだけを他の事業者に依頼するという事はできない。   |
| D委員 | ○二次審査は事業者の面接試験のようなもので、事業を行っていくうえで事務局が事業者とうまくやっていけるのかをみるという観点では取組姿勢の配点は意味があることだと思う。<br>○一次審査項目の納入実績、総括責任者の経歴、機器製造部門責任者の経歴、番組制作部門責任者の経歴に関しては数値が出るものなので、事務局採点で良いのではないか。 |
| 事務局 | ○事務局採点項目とするよう修正する。   |
| B委員 | ○今回の契約については 15 年間の保守契約まで結ぶものではなく、機械の購入のみという認識で良いか。   |
| 事務局 | ○その認識で良い。  |
| B委員 | ○保守経費については参考事業規模額に含まれていないことを明記する必要がある。   |

|     |  |
|-----|--|
| 事務局 | ○明記する。   |
| B委員 | ○15年間の保守について、メーカーによって差があることから、具体的にわかりやすくなるよう工夫してほしい。                 |
| 事務局 | ○様式15の作成要領の文言を修正する。  |
| E委員 | ○著作権のことがあるとは思いますが、コンテンツは絵コンテだけでなく動画などを事業者にも送ってもらうことは可能か。             |
| 事務局 | ○可能である。  |
| D委員 | ○一次審査項目の学習番組、一般番組、オリジナル番組について、短い時間で動画があると採点しやすい                      |
| 事務局 | ○事業者書類と一緒にDVD等でサンプル映像を提出してもらうことにする。                                  |
| 委員長 | ○以上の意見、指摘を踏まえて事務局で修正し、再度委員が確認した資料を、本プロポーザルにおける募集要項として決定するという事によろしいか。 |
| 全委員 | (異議なし)   |
|     | 【5 その他】<br>(事務局より次回日程を含むスケジュールの確認)                                   |
|     | 【6 閉会】<br>(委員長より閉会の挨拶) ～詳細省略～  |